



なんとか
しなきゃ!

「なんとかしなきゃ!プロジェクト-見過ごせない55億人」1周年記念イベント開催

世界とつながっている日本 ～今、私たちができること～



今、開発途上国で何が起こっている?国際協力に興味はあるけど、何から始めていいか分からず。そんな疑問に答えるべく、2010年7月にスタートした日本発の市民参加型の国際協力運動「なんとかしなきゃ!プロジェクト-見過ごせない55億人」。国際協力NGOセンター(JANIC)、国連開発計画(UNDP)、JICAが運営事務局となり、専用ウェブサイトや日本各地でのイベント、著名人メンバーによる現地視察などを通じて、国際協力の参加方法を提案してきました。

8月6日、東京・市ヶ谷でプロジェクトの1周年記念イベントが開催されました。この日のテーマは「池上彰と考える『支援される日本、支援する日本』」。3月11日の東日本大震災を受けて、世界各国から温かい支援を受けた日本。その中には、これまで日本が支援してきた途上国も多く含まれています。人と人の「絆」をあらためて実感する中で、国際協力を通じて世界と

どう向き合っていくべきか。ジャーナリストの池上彰さんを迎えて、定員を超える約280人の来場者、インターネット動画サイトの生中継を視聴した日本全国の人々と共に考えました。

第一部のパネルディスカッションでは池上さんがナビゲーターを務め、医師の桑山紀彦さん、経営コンサルタントのショーンKさん、フリーアナウンサーの高柳恭子さんがパネリストとして参加。東日本大震災により日本が今年世界最大の被援助国になるという事実を紹介した上で、池上さんが日本のこれまでのODA(政府開発援助)について“分かりやすく”解説。参加者から事前に寄せられた質問にも答えながら、日本の国際協力の在り方について議論しました。

NPO法人地球のステージの代表理事として途上国で医療支援活動を行う桑山さんは、「単に貧しいからだけでなく、世界の複雑な問題に対応するのが国際協力」と強調。また、東日

本大震災で外国人医療団の受け入れに協力したショーンKさんは「国境を越えた支援がもっと柔軟に行えるような法整備が必要」、青年海外協力隊OGでもある高柳さんは「小さなことでも行動を起こして“知る”努力をすべき」と話しました。「私たちは生活物資の大部分を途上国に依存している。国際協力は日本の子どもたちの将来への投資でもあります」と池上さん。「誰かが困っていたら助ける。“情けは人のためならず”だと思いますか」と問い合わせました。

第二部は、「地球のステージ 東日本大震災と国際協力版」。自身も宮城県名取市で被災した桑山さんが、自らの手で収めた映像や写真などをスライドで紹介し、音楽や歌を交えながら被災地の現状を伝えました。

あなたの「なんとかしなきゃ!」が、日本を、世界を変える大きな力となります。途上国や国際協力について知りたい人は、[なんとかしなきゃ.jp](http://www.jica.jp)へ。